

## 国内自転車生産・輸出入状況（平成25年1～6月）

### 1. 我が国の自転車生産

経済産業省生産動態統計調査によると、平成25年1～6月の我が国の完成自転車生産台数は497,246台、完成自転車生産金額は214億5,600万円であった。これらを前年同期と比較すると、生産台数は13.2%減、金額は8.4%減となっている。一方で平成25年1～6月の完成自転車生産平均単価は43,150円となっており、前年同期の40,870円から5.6%上昇した。この模様を表1に示す。

表1 平成25年1～6月の我が国自転車生産

	総台数	総生産金額(百万円)	平均単価(円)
平成25年1～6月	497,246	21,456	43,150
平成24年1～6月	572,870	23,413	40,870
変化	-75,624	-1,957	2,280
変化%	-13.2%	-8.4%	5.6%

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

平成25年1～6月の車種別の生産状況を前年同期と比較したものが表2である。3つの全ての車種で台数・金額ともに減少している。「軽快車」は台数で25.9%、金額で22.3%と大きく減少したほか、「電動アシスト車」、「その他」も台数・金額とも減少を示している。

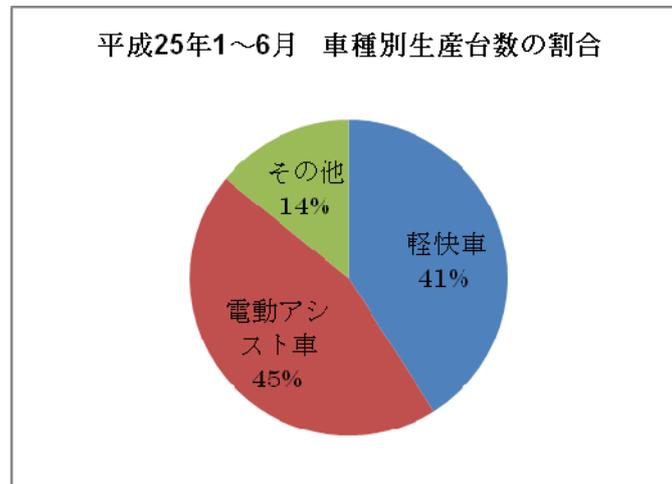
表2 車種別生産状況 平成25年1～6月と平成24年1～6月との比較

1～6月	平成25年		平成24年		変化			
	台数	金額(百万円)	台数	金額(百万円)	台数	%	金額(百万円)	%
軽快車	203,894	4,175	275,061	5,372	-71,167	-25.9	-1,197	-22.3
電動アシスト車	223,085	15,580	227,108	16,291	-4,023	-1.8	-711	-4.4
その他	70,267	1,703	70,701	1,751	-434	-0.6	-48	-2.7
計	497,246	21,456	572,870	23,413	-75,624	-13.2	-1,674	-7.1

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会  
 尚、四捨五入の関係で合計が一部合致しない。

表2を基に平成25年1～6月の車種別の生産台数の割合をグラフで示したものが図Aである。「電動アシスト車」が最も多く平成25年1～6月の生産台数の45%、「軽快車」がこれに次ぎ41%を占めていることがわかる。

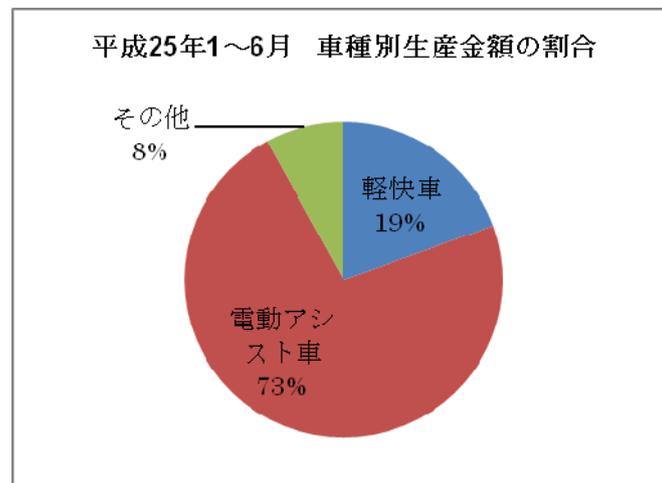
図A



出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

また同様に、表2を基に平成25年1～6月の車種別の生産金額の割合をグラフで示したものが図Bである。「電動アシスト車」が73%を占めており、大きな割合を占めている。

図B



出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

次に車種別の生産平均単価について、平成25年1～6月と平成24年1～6月とを比較したものを表3に示す。1～3月の時点では3つの車種区分の中で「電動アシスト車」の平均単価だけが前年同期と比較し下落していたが、1～6月になると「その他」のもの生産平均単価も前年同期と比較し下落に転じた。

表3 車種別生産平均単価 平成25年1～6月と平成24年1～6月との比較

車種	平成25年1～6月 平均単価(円)	平成24年1～6月 平均単価(円)	変化(円)	変化(%)
軽快車	20,476	19,530	946	4.8
電動アシスト車	69,839	71,732	-1,893	-2.6
その他	24,236	24,766	-530	-2.1
計	43,150	40,870	2,280	5.6

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

現在「電動アシスト車」の国内生産は重要な位置付けにあると考えられる。月毎の「電動アシスト車」の生産台数・生産金額・平均単価を調べてみると表4の通りとなる。平成25年2月の「電動アシスト車」の生産平均単価は60,503円と、他の月に比べると低さが際立っていたが、その後本年4～6月の生産平均単価は概ね平均的水準で推移していると言ってよいと思われる。生産平均単価について1～6月を通して見ると2月の大幅な下落と6月の3,000円強の下落等により、前年同期比で2,000円弱の下落となっている。

表4 「電動アシスト車」の月毎の生産状況 平成25年と平成24年との比較

	平成25年			平成24年			平均単価 の変化 (円)
	生産台数 (台)	生産金額 (百万円)	平均単価 (円)	生産台数 (台)	生産金額 (百万円)	平均単価 (円)	
1月	33,738	2,476	73,389	35,535	2,501	70,381	3,008
2月	35,833	2,168	60,503	40,781	3,003	73,637	-13,134
3月	42,603	3,064	71,920	40,025	2,864	71,555	365
4月	40,518	2,890	71,326	38,387	2,741	71,404	-78
5月	34,197	2,482	72,579	37,358	2,647	70,855	1,724
6月	36,196	2,500	69,068	35,022	2,534	72,355	-3,287
1～6月	223,085	15,580	69,839	227,108	16,291	71,732	-1,893

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

## 2. 我が国自転車生産企業の総合的な生産・出荷・在庫状況

平成25年1～6月における、「生産」、「受入」、「出荷(販売及びその他)」、そして「月末在庫」も含んだ総合的な生産・販売状況について、前年同期と比較したものが表5である。

表5 我が国自転車生産企業の生産・出荷・在庫状況  
平成25年1～6月と平成24年1～6月との比較

車種	生産		受入 (台)	出荷			月末在庫 (台)
	台数	金額 (百万円)		販売		その他(台)	
				台数	金額(百万円)		
平 25.1～6 軽快車	203,894	4,175	781,088	826,418	12,543	197,045	106,710
平 24.1～6 軽快車	275,061	5,372	902,491	964,210	14,396	232,951	108,021
変化 %	-25.9	-22.3	-13.5	-14.3	-12.9	-15.4	-1.2
平 25.1～6 電動アシスト車	223,085	15,580	157,458	223,445	15,332	153,215	26,149
平 24.1～6 電動アシスト車	227,108	16,291	154,200	213,826	14,466	149,872	40,581
変化 %	-1.8	-4.4	2.1	4.5	6.0	2.2	-35.6
平 25.1～6 その他	70,267	1,703	312,064	310,935	5,015	75,406	61,464
平 24.1～6 その他	70,701	1,751	350,655	340,542	5,134	76,815	64,280
変化 %	-0.6	-2.7	-11.0	-8.7	-2.3	-1.8	-4.4
平 25.1～6 全車種計	497,246	21,456	1,250,610	1,360,798	32,890	425,666	194,323
平 24.1～6 全車種計	572,870	23,413	1,407,346	1,518,578	33,995	459,638	212,882
変化 %	-13.2	-8.4	-11.1	-10.4	-3.3	-7.4	-8.7

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会  
尚、四捨五入の関係で合計が一部合致しない。

「受入」台数についてみると、平成25年1～6月の全車種の「受入」台数は平成24年1～6月の「受入」台数に比べ11.1%減少した。1～3月時点での減少幅が15.8%だったので、減少幅は若干小さくなっている。車種別には、「軽快車」が13.5%減少、幅広い車種を含んでいる「その他」のものが11.0%減少した。「電動アシスト車」の「受入」台数は2.1%増加した。「受入」台数の多くは自転車生産企業が輸入した自転車台数と推測される。

次に「出荷・販売」台数についてみると、平成25年1～6月の全ての車種の「出荷・販売」台数は平成24年1～6月のそれに比べ10.4%減少した。車種別にみると、「軽快車」が14%強減少したほか「その他」が8.7%減少した一方で、「電動アシスト車」は4.5%増加した。「出荷・販売」金額については、全車種では3.3%減少し、車種別では「軽快車」が12.9%、「その他」が2.3%各々減少した一方で、「電動アシスト車」は6%増加した。

平成25年1～6月の全車種の「出荷・その他」台数は、平成24年1～6月のそれに比べ7.4%減少した。車種別にみると、「軽快車」が15.4%、「その他」が1.8%各々減少した一方で、「電動アシスト車」は2.2%増加した。尚、「出荷・その他」とは受託生産品を委託生産業者へ出荷する等したものである。

「月末在庫」については、平成25年6月の全車種の「月末在庫」台数は194,323台で、前年同月の212,882台から8.7%減少した。車種別には全ての車種で減少を示しており、

「電動アシスト車」が35.6%と大きく減少したほか、「軽快車」が1.2%、「その他」のものが4.4%減少した。

表6に平成18年から平成25年まで過去8年間の毎年1～6月の我が国の自転車生産、出荷及び6月末在庫台数の推移を示す。

表6 我が国自転車生産企業の毎年1～6月の自転車生産・出荷及び6月末在庫の過去8年間の推移

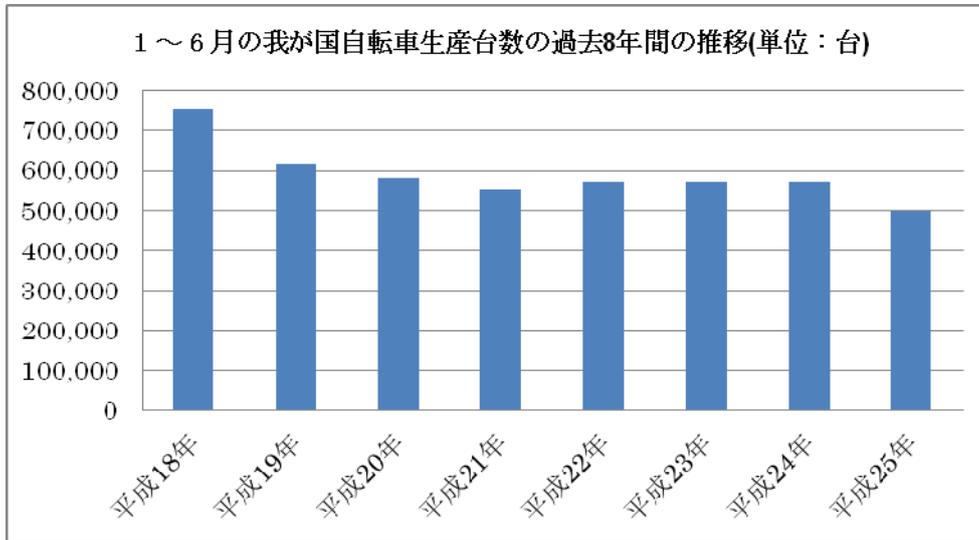
1～6月	生産			出荷			月末在庫 台数(台)
	台数(台)	金額 (百万円)	平均単価 (円)	台数(台)	金額 (百万円)	平均単価 (円)	
平成25年	497,246	21,456	43,150	1,360,798	32,890	24,170	194,323
平成24年	572,870	23,413	40,870	1,518,578	33,995	22,386	212,882
平成23年	573,193	22,576	39,386	1,764,506	37,151	21,055	171,886
平成22年	571,753	20,102	35,159	1,720,957	32,847	19,086	210,186
平成21年	554,590	17,143	30,911	1,730,486	30,984	17,905	190,256
平成20年	582,440	14,407	24,736	1,942,549	29,032	14,945	191,694
平成19年	614,441	13,200	21,483	2,060,732	26,660	12,937	209,947
平成18年	755,461	14,282	18,905	2,281,242	27,159	11,905	232,646

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

平成25年1～6月の「生産台数」は過去8年間で最低、「生産金額」は過去8年間で3番目に多くなっている。これらの事から「生産平均単価」は過去8年間一貫して上昇を続けており、平成25年1～6月は43,150円と最高となっている。また平成25年1～6月の「出荷台数」は過去8年間で最低、「出荷金額」は過去8年間で3番目に多く、これらの事から生産の場合と同様、「出荷平均単価」も24,170円と過去8年間で最高となっている。また「生産平均単価」と「出荷平均単価」とを比べると「生産平均単価」の方が8年間一貫して高くなっている。「6月末在庫台数」は194,323台で、過去8年間で5番目に多くなっており、この推移の中では標準的な水準にある。

表6を基に平成18年から平成25年までの過去8年間の毎年1～6月の「生産台数」の推移をグラフで示したものが図Cである。平成22年から平成24年にかけて若干増加傾向にあったものの、平成25年には再び減少したことが示されている。

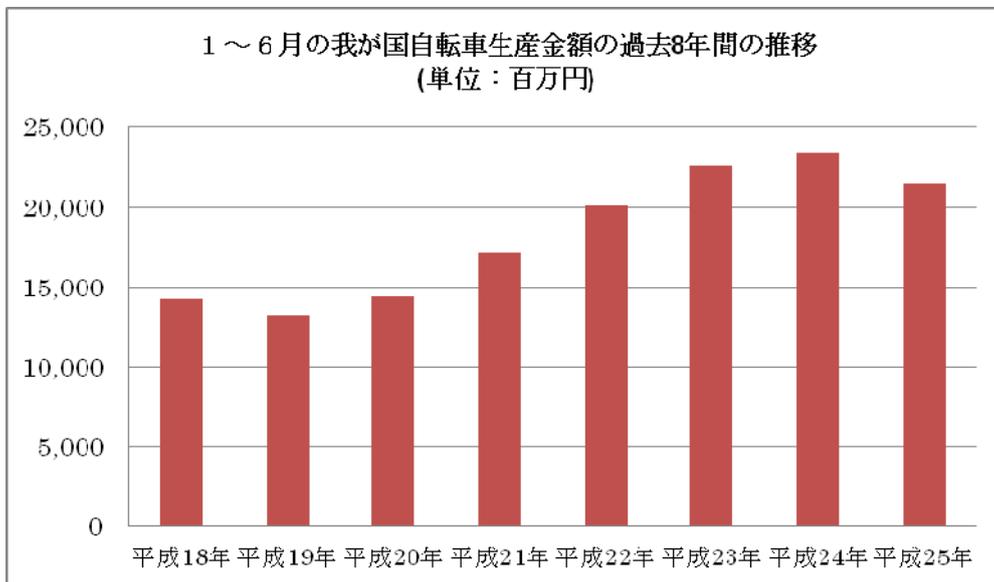
図 C



出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

同様に、表6を基に平成18年から平成25年までの過去8年間の毎年1～6月の生産金額の推移をグラフで示したものが図Dである。平成24年まで順調に増加してきたが、平成25年は平成23年を下回る水準となっている。

図 D



出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

### 3. 我が国の自転車輸入

表7は平成25年1～6月の全ての車種の自転車の我が国への輸入の様相について前年同期と比較しながら示したものである。総台数は6.8%減少したが、1～3月には12%減少していたので、減少幅は小さくなってきている。総CIF金額は5.5%増加し、これらの結果、平均CIF単価は平成24年1～6月の8,558円から平成25年1～6月の9,690円へと13.2%上昇した。

表7 平成25年1～6月の我が国の自転車輸入 平成24年1～6月との比較

	総台数(台)	総CIF金額(千円)	平均CIF単価(円)
平成25年1～6月	4,471,862	43,332,516	9,690
平成24年1～6月	4,798,280	41,064,255	8,558
変化	-326,418	2,268,261	1,132
変化%	-6.8	5.5	13.2

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

表8は平成25年1～6月の我が国の自転車輸入に関し、車種別の状況を示したものである。

表8 平成25年1～6月 我が国の車種別自転車輸入

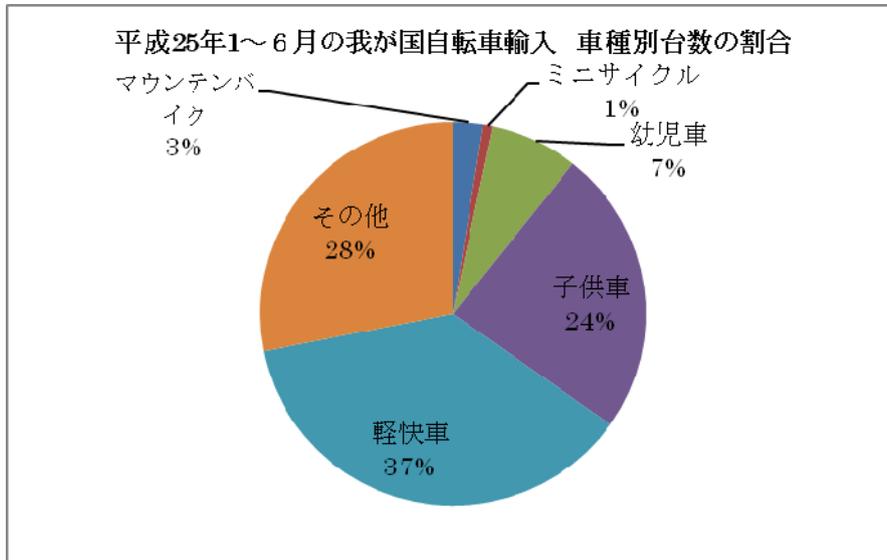
関税番号及び車種	台数(台)	総CIF金額(千円)	平均CIF単価(円)
8712.00100 マウンテンバイク	112,378	2,311,677	20,571
8712.00211 ミニサイクル	36,363	454,626	12,502
8712.00218 幼児車	328,153	2,023,474	6,166
8712.00219 子供車	1,080,442	8,951,614	8,285
8712.00291 軽快車	1,656,647	14,534,995	8,774
8712.00299 その他	1,257,879	15,056,130	11,969
計	4,471,862	43,332,516	9,690

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

8712.00100に分類される「マウンテンバイク」は、平均CIF単価が20,571円と最も高くなっている。8712.00211に分類される「ミニサイクル」の台数は36,363台と6つの輸入車種区分の中では最低であるが、平均CIF単価は12,502円と2番目に高くなっている。高価な小径車がこの区分の中に含まれているものと思われる。また8712.00291に分類される「軽快車」はこの期間の輸入台数全体の37%を占め最も台数が多く、平均CIF単価は8,774円となっている。更に8712.00299に分類される「その他」にはスポーツ車や外装変速機付軽快車等が含まれるが、台数は6つの車種区分の中で2番目、総CIF金額は最大となっており、平均CIF単価は11,969円と「マウンテンバイク」に次いでいる。

表8を基に、平成25年1～6月の我が国自転車輸入について車種別の台数割合をグラフにより示したものが図Eである。前述の通り「軽快車」が37%を占め、次いで「その他」が28%を占めている。

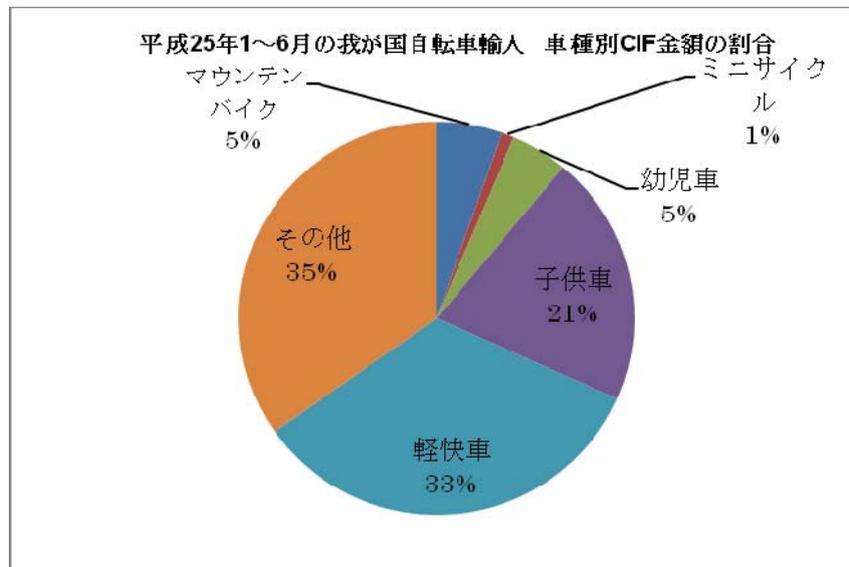
図 E



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

同様に表 8 を基に、平成 25 年 1～6 月の我が国自転車輸入について車種別の金額割合をグラフにより示したものが図 F である。「その他」が 35%、「軽快車」が 33%と大きな割合を占め、これら二つで 68%を占めている。

図 F



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

尚、輸入における関税番号及び車種は以下の通り分類されている。

表 9 輸入における車種区分 関税番号

品名区分／関税番号	車 種
8712.00100 マウンテンバイク	・MTB(Vブレーキ・Diskブレーキ装着車を含む) ・クロスバイク
8712.00211 ミニサイクル	・ミニサイクル ・小径折りたたみ車 ・BMX
8712.00218 幼児車	・幼児車(12～16吋) ・乗用玩具(12吋二輪車) ・一輪車(12～16吋)
8712.00219 子供車	・子供車(18～24吋) ・Jr.MTB(18～24吋) ・一輪車(18～24吋)
8712.00291 軽快車	・軽快車(外装変速機付は含まない) ・シングル、内装変速機付スポーツ車
8712.00299 その他	・スポーツ車 ・外装変速機付軽快車 ・Jr.MTB(26吋)

出典：一般財団法人自転車産業振興協会

表 10 は平成 25 年 1～6 月の車種別の我が国への自転車輸入について去年同期と比較しながら示したものである。

表 10 我が国の車種別自転車輸入 平成 25 年 1～6 月と平成 24 年 1～6 月との比較

1～6 月 車種	平成 25 年		平成 24 年		変化 %	
	台数	CIF 金額(千円)	台数	CIF 金額(千円)	台数	CIF 金額
8712.001 マウンテンバイク	112,378	2,311,677	190,955	3,397,701	-41.1%	-32.0%
8712.0021 ミニサイクル	36,363	454,626	53,801	494,475	-32.4%	-8.1%
8712.0022 幼児車	328,153	2,023,474	340,845	1,719,386	-3.7%	17.7%
8712.0022 子供車	1,080,442	8,951,614	1,125,604	7,756,468	-4.0%	15.4%
8712.0029 軽快車	1,656,647	14,534,995	1,808,960	13,541,922	-8.4%	7.3%
8712.003 その他	1,257,879	15,056,130	1,278,115	14,154,303	-1.6%	6.4%
計	4,471,862	43,332,516	4,798,280	41,064,255	-6.8%	5.5%
平均単価(円)		9,690		8,558		13.2%

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

台数では全ての車種で減少している。このうち「マウンテンバイク」は 41.1%も輸入台数が減少している。また輸入台数の最も多い「軽快車」は平成 24 年 1～6 月の 1,808,960 台から平成 25 年 1～6 月の 1,656,647 台へと 8.4%減少した。

金額では台数でも大きく減少した「マウンテンバイク」が32%減少し「ミニサイクル」も8.1%減少した。一方、「幼児車」は17.7%、「子供車」は15.4%、「軽快車」は7.3%、「その他」は6.4%各々金額が増加したため、全車種の総CIF金額は前述の通り5.5%増加している。

表11は毎年1～6月の我が国への自転車輸入の過去13年間の推移を示したものである。

表11 毎年1～6月の我が国の自転車輸入の過去13年間の推移 全車種

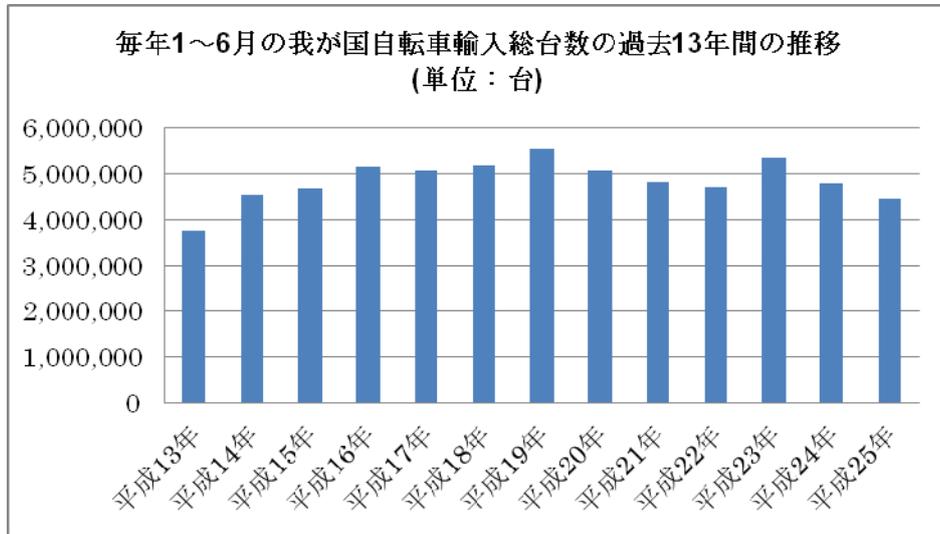
年	総輸入台数	総CIF金額(千円)	平均CIF単価(円)
平成25年	4,471,862	43,332,516	9,690
平成24年	4,798,280	41,064,255	8,558
平成23年	5,331,948	41,315,173	7,749
平成22年	4,723,113	36,870,424	7,806
平成21年	4,821,939	41,444,013	8,595
平成20年	5,067,152	42,007,396	8,290
平成19年	5,564,067	43,338,309	7,789
平成18年	5,176,368	37,205,484	7,188
平成17年	5,066,553	31,690,477	6,255
平成16年	5,136,236	30,997,096	6,035
平成15年	4,696,630	31,062,819	6,614
平成14年	4,558,983	32,773,081	7,189
平成13年	3,755,778	21,742,353	5,789

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

平成25年1～6月の総輸入台数は過去13年で2番目に少なくなっており、平成13年以來の少なさである。一方、1～6月の総CIF金額は過去13年間で2番目に多くなっている。これらの事から平均CIF単価は9,690円となり、これまでの最高であった平成21年1～6月の8,595円を1,000円以上も上回り、過去13年間で最高となっている。

表11を基に平成13年から平成25年までの過去13年間の毎年1～6月の輸入総台数の推移をグラフにより示したものが図Gである。

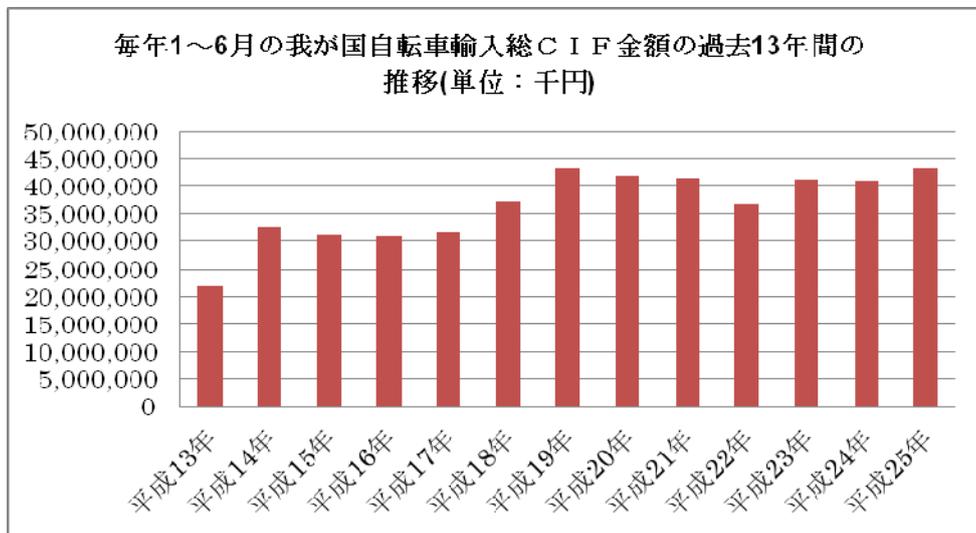
図 G



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

同様に表 1 1 を基に平成 13 年から平成 25 年までの過去 13 年間の毎年 1～6 月の輸入総 CIF 金額の推移をグラフにより示したものが図 H ある。

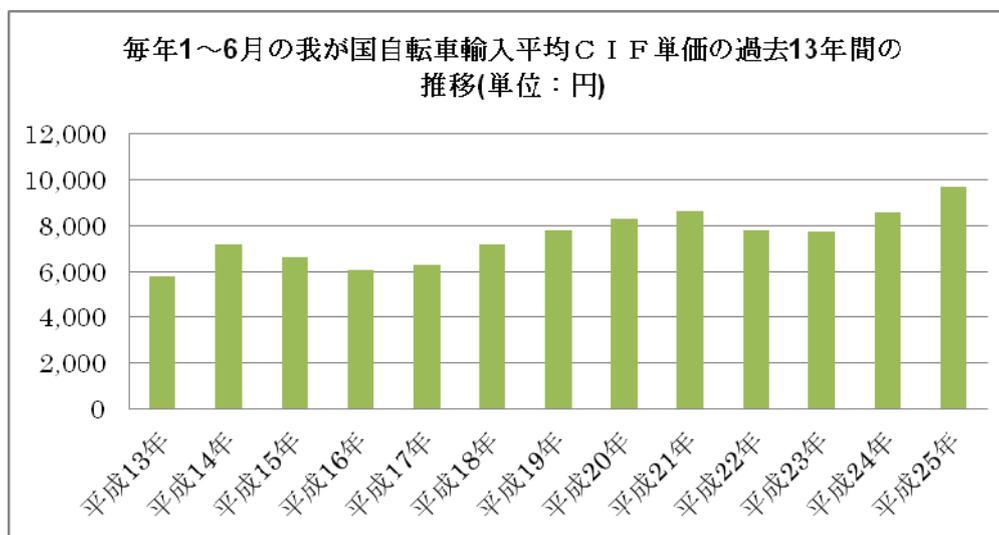
図 H



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

更に表 1 1 を基に平成 13 年から平成 25 年までの過去 13 年間の毎年 1～6 月の輸入平均 CIF 単価の推移をグラフにより示したものが図 I ある。

図 1



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

総輸入台数の月毎の推移を調べてみると表 1 2 のようになる。1月の総輸入台数は過去 13 年間で 4 番目に多かったが、本年 2 月の総輸入台数は 729,345 台となり過去 13 年間で 5 番目の少なさであった。本年 3 月の総輸入台数は 997,586 台で平成 13 年に次ぐ少なさとなった。更に、本年 4 月の総輸入台数は 949,665 台と過去 13 年間で 4 番目の少なさ、本年 5 月の総輸入台数は 634,542 台で遂に過去 13 年間で最低となり、次いで本年 6 月の総輸入台数も 514,285 台で引き続き過去 13 年間で最低である。

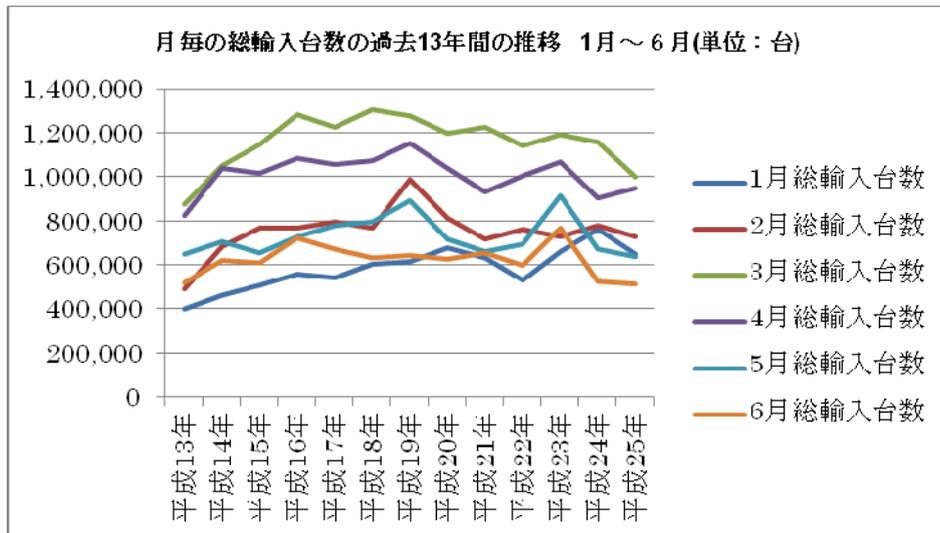
表 1 2 月毎の総輸入台数の過去 13 年間の推移 1 月、2 月、3 月、4 月、5 月、6 月

年	1月総輸入台数	2月総輸入台数	3月総輸入台数	4月総輸入台数	5月総輸入台数	6月総輸入台数
平成 25 年	646,439	729,345	997,586	949,665	634,542	514,285
平成 24 年	759,838	779,645	1,156,072	904,565	672,252	525,908
平成 23 年	661,234	725,936	1,192,986	1,067,890	915,243	768,659
平成 22 年	529,116	759,113	1,140,340	1,002,806	691,515	600,223
平成 21 年	631,533	717,828	1,226,863	932,220	660,802	652,693
平成 20 年	679,048	809,921	1,195,076	1,041,042	718,439	623,626
平成 19 年	613,892	988,006	1,275,167	1,152,734	890,124	644,144
平成 18 年	602,545	765,063	1,303,124	1,075,231	796,610	633,795
平成 17 年	541,343	796,348	1,226,300	1,056,187	777,336	669,039
平成 16 年	556,120	767,570	1,280,277	1,081,557	727,411	723,301
平成 15 年	504,267	764,381	1,145,964	1,015,772	655,917	610,329
平成 14 年	462,594	682,561	1,051,785	1,037,903	705,257	618,883
平成 13 年	402,134	489,191	875,729	821,736	646,209	520,779

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

表12の月毎の総輸入台数の過去13年間の推移をグラフにより示したものが図Jである。5月及び6月のラインをたどっていくと、本年5月及び6月の総輸入台数が過去13年間で最低となっている事がわかる。また過去13年間を通じ3月の総輸入台数が最高で、その後4月、5月、6月と総輸入台数が順次減少していく様子も読み取れる。

図J



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

表13は、毎年1～6月の我が国の車種別の自転車輸入台数の過去13年間の推移について示したものである。

表13 毎年1～6月の我が国の車種別自転車輸入台数の過去13年間の推移

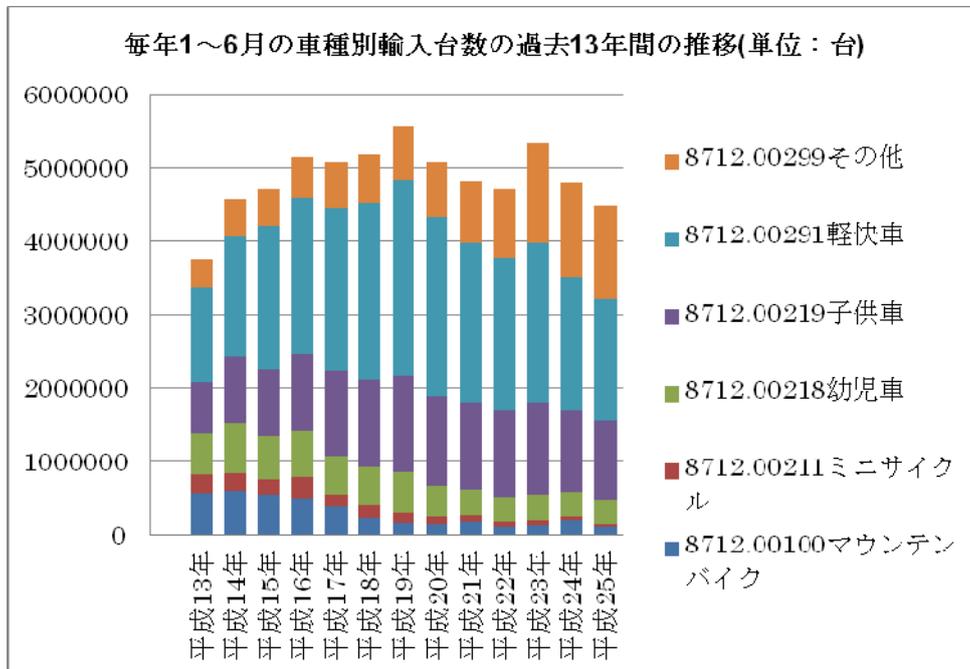
年	8712.00100 マウンテン バイク	8712.00211 ミニサイク ル	8712.00218 幼児車	8712.00219 子供車	8712.00291 軽快車	8712.00299 その他	計
平成25年	112,378	36,363	328,153	1,080,442	1,656,647	1,257,879	4,471,862
平成24年	190,955	53,801	340,845	1,125,604	1,808,960	1,278,115	4,798,280
平成23年	133,186	65,450	361,109	1,252,489	2,153,138	1,366,576	5,331,948
平成22年	112,694	72,310	337,421	1,186,829	2,055,075	958,784	4,723,113
平成21年	178,663	82,579	361,821	1,183,163	2,170,068	845,645	4,821,939
平成20年	153,604	96,776	422,657	1,217,508	2,438,420	738,187	5,067,152
平成19年	165,451	140,261	550,506	1,302,037	2,681,058	724,754	5,564,067
平成18年	236,521	162,182	527,333	1,179,149	2,412,514	658,669	5,176,368
平成17年	388,361	155,871	535,139	1,154,215	2,213,253	619,714	5,066,553
平成16年	498,563	283,292	636,625	1,042,198	2,113,227	562,331	5,136,236
平成15年	551,806	199,093	589,703	928,226	1,946,648	481,154	4,696,630
平成14年	603,546	243,991	661,858	925,448	1,625,851	498,289	4,558,983
平成13年	575,899	254,958	557,492	690,578	1,280,317	396,534	3,755,778

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

平成 25 年 1～6 月の「マウンテンバイク」の輸入台数は 112,378 台、「ミニサイクル」の輸入台数は 36,363 台、「幼児車」の輸入台数は 328,153 台で、これら 3 つの車種については過去 13 年間で輸入台数が最低となっている。更に「子供車」の本年 1～6 月の輸入台数は 1,080,442 台と過去 13 年で 5 番目の少なさ、「軽快車」の本年 1～6 月の輸入台数も 1,656,647 台と過去 13 年で 3 番目の少なさとなっている。他方「その他」の自転車の本年 1～6 月の輸入台数は 1,257,879 台で、過去 13 年の推移の中では 3 番目の多さではあるが、平成 23 年 1～6 月の 1,366,576 台をピークとして 3 年間減少が続いている。前述の通り、これらの事から平成 25 年 1～6 月の総輸入台数は 4,471,862 台と過去 13 年で平成 13 年以来 2 番目の少なさとなっている。

これらの模様をグラフで示したものが図 K である。

図 K



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

平成 25 年 1～6 月の我が国の自転車輸入に関し、その主要供給元を示したものが表 1 4 である。

表 1 4 平成 25 年 1～6 月 我が国の完成自転車輸入 主要供給元

供給元	総台数	総 CIF 金額 (千円)	平均 CIF 単価(円)
中華人民共和国	4,339,101	38,107,298	8,782
台湾	121,162	4,554,326	37,589
その他	11,599	670,892	57,841
計	4,471,862	43,332,516	9,690

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

引き続き「中華人民共和国」が最大の供給元である事は明らかである。総台数の97%、総CIF金額の87.9%を占めている。平均CIF単価は8,782円であった。これに次ぐのが「台湾」で、台数の2.7%、総CIF金額の10.5%を占め、平均CIF単価は37,589円で、「中華人民共和国」産のものものの4.3倍である。これら2つの国・地域で総台数の99.7%、総CIF金額の98.4%を占めている。

#### 4. 国内向け数量

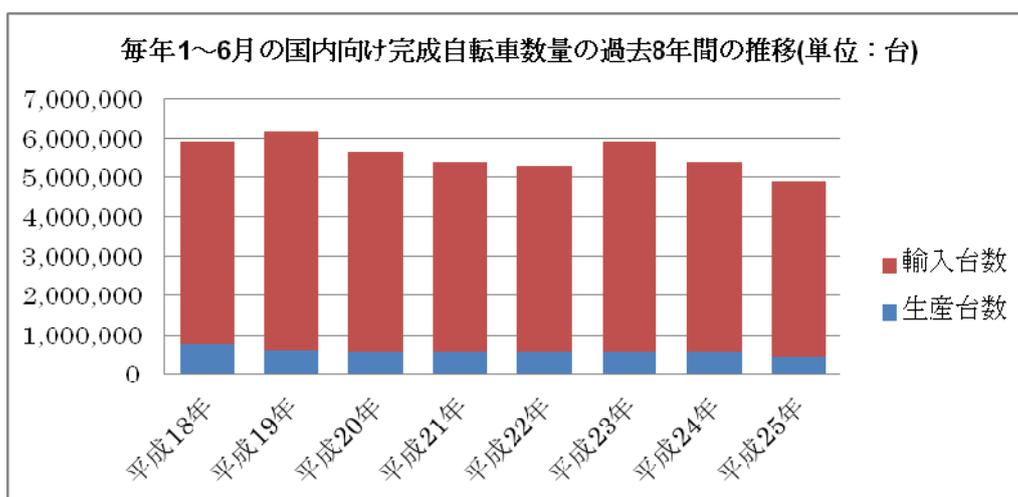
我が国の完成自転車輸出はその殆ど全てが中古車の途上国向け輸出であるため、「生産台数」と「輸入台数」の合計が「国内向け数量」と考えられる。毎年1～6月の「国内向け数量」の過去8年間の推移を表15に示す。平成25年1～6月の「国内向け数量」は過去8年間の推移の中で最低となっている。「生産台数」も「輸入台数」も過去8年間で最低となっているためである。国内生産の比率は10.0%で、過去8年間の推移の中では低い水準となっている。また、これらの模様をグラフにより示したものが図Lである。

表15 毎年1～6月の我が国完成自転車の国内向け数量の過去8年間の推移

年	生産台数	輸入台数	国内向け数量	国内生産の比率%
平成25年	497,246	4,471,862	4,969,108	10.0
平成24年	572,870	4,798,280	5,371,150	10.7
平成23年	573,193	5,331,948	5,905,141	9.7
平成22年	571,753	4,723,113	5,294,866	10.8
平成21年	554,590	4,821,939	5,376,529	10.3
平成20年	582,440	5,067,152	5,649,592	10.3
平成19年	614,441	5,564,067	6,178,508	9.9
平成18年	755,461	5,176,368	5,931,829	12.7

出典：経済産業省生産動態統計調査、財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

図L



出典：経済産業省生産動態統計調査、財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

## 5. 我が国の自転車輸出

我が国の自転車輸出は途上国向けの中古自転車が殆ど全てである。平成 25 年 6 月の我が国自転車輸出の主な仕向け先を表 1 6 に示す。平均 FOB 単価を見ればこれらの自転車輸出は中古自転車輸出である事は明らかである。

表 1 6 平成 25 年 6 月 主要仕向け先別の我が国の完成自転車輸出

仕向け先国・地域	総台数	総 FOB 金額 (千円)	平均 FOB 単価(円)
ガーナ	48,054	64,060	1,333
カンボジア	46,174	62,038	1,344
ミャンマー	44,598	54,573	1,224
香港	32,903	46,263	1,406
タンザニア	27,375	37,035	1,353
タイ	17,964	30,004	1,670
フィリピン	11,847	19,439	1,641
ナイジェリア	10,955	15,503	1,415
UAE	10,260	15,822	1,542
イラク	7,174	12,553	1,750
その他	21,325	32,541	1,526
計	278,629	389,831	1,399

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

表 1 7 に平成 13 年から平成 25 年までの過去 13 年間の毎年 1～6 月の我が国自転車輸出の推移を示す。総台数は増加傾向にあり平成 25 年 1～6 月は過去 13 年間で最高となっている。本年 1～6 月の総 FOB 金額も過去 13 年間で最高となっている。本年 1～6 月の平均 FOB 単価は 1,339 円で、過去 13 年の推移の中では標準的な水準である。

表 1 7 毎年 1～6 月の我が国自転車輸出の過去 13 年間の推移 全車種

年	総台数	総 FOB 金額 (千円)	平均 FOB 単価(円)
平成 25 年	1,560,970	2,090,763	1,339
平成 24 年	1,472,001	1,919,884	1,304
平成 23 年	1,229,534	1,612,630	1,312
平成 22 年	1,183,762	1,585,455	1,339
平成 21 年	1,086,363	1,498,350	1,379
平成 20 年	1,154,173	1,923,095	1,666
平成 19 年	866,620	1,118,874	1,291
平成 18 年	643,714	698,402	1,085
平成 17 年	548,346	628,453	1,146
平成 16 年	481,314	613,121	1,274
平成 15 年	370,119	519,216	1,403
平成 14 年	298,521	393,282	1,317
平成 13 年	239,710	356,495	1,487

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

以 上